

「体幹機能に関する EMG、COP、動作解析研究から臨床を考える」

寝屋川ひかり病院 野瀬晃志

ポートアイランド病院 中道哲朗

日常生活場面では洗濯物干し動作や前のものを取る際に前方リーチ動作を日常的に実施する。前方リーチ動作の際、前方に体重をのせた状態で体幹を正中位に保持することが重要となる。このように立位での前方体重移動は日常生活場面において構成要素の一部となっている。またリハビリテーション場面においても、歩行動作の前段階として歩行開始や立脚後期を想定した練習として実施することがある。

先行研究において最大前方移動における静止課題の検討は実施されており、多裂筋と最長筋の重要性が示唆されている。しかし理学療法場面においては最大前方移動に至る前に体幹を垂直位に保持出来ず、実施困難となるケースを経験する。このような場合、どの程度の前方移動課題で筋活動が生じるのかを知ることによって段階的なアプローチが可能となることが考えられる。

今回、私たちは立位における前方移動課題中の姿勢変化と筋電図データを検討することで知見が得られたため、臨床における評価・治療の参考にしていただきたい。

また、腰背筋群の触診を行う際、電極貼付位置を参考にすることがあるが、多裂筋に関しては研究者によって電極貼付位置が異なる傾向がある。そこで今回、エコーを用いて多裂筋、最長筋の動態に関して加えて検討を実施した。エコーにおける検討で得られた結果を共有することで、今後の腰背筋群の筋電図検討や触診を行う際の知見となれば幸いである。